

☆校長雑感☆

第6回 「にわかファン」

今年の野球「WBC」やバスケットボール「ワールドカップ」は非常に盛り上がりました。

そういう時に、それまでは特に野球やバスケットが好きにならなくてもなかったのに、急にファンになるいわゆる「にわかファン」といった人たちが急増したと思います。

私（栗林）自身は、この「にわかファン」というのは、実はあまり好きではありません。何か、もともとのファンの人たちの積み重ねたものに急に割り込んできて、“おいしいところ”だけ持っていくような、あまりよくないイメージしかなかったのです。

ところが、そんな私が「犬」の「にわかファン」になったので、今回はその事をお伝えします。



↑ぶー（左）と、こなつ（右）

私は子供の頃、家で猫は飼っていましたが、犬は飼ったことがありませんでした。そんな私ですが、今年の1月に結婚（再婚）しまして、妻が犬を2匹飼っていることから、私も妻と一緒に犬を飼うことに急になったのです。

その2匹の犬の名前は「ぶーちゃん」「こなっちゃん」といいます。右上の写真の犬です。2匹ともミニチュアダックスフンドで、妻はもう8年ほど飼っていると言います。

今、妻と私は別々に暮らしてしまっていて、週末に主に私が妻の家に行くと犬も含めて一緒に生活しているという状態です。私が妻の家に行ったとき、写真のように2匹の犬はさかんにワンワンほえてきます。そのほえ方は結構激しくて、怖いくらいです。そして、体をなでようとするとうつと私の指を噛（か）もうとします。

激しくほえながら、しかも牙をむいて噛もうとするので、最初は「うわ、指を噛みちぎられるッ！」と覚悟を決めたときもありました。

ところが、です。2匹ともガブツと指を噛む寸前でピタッと噛むのをやめているのです。まさに、「寸止め」です。犬を飼っている人にとっては、この「寸止め」は常識かもしれませんが、私にとっては、最初は命拾いしたようなものでした。

それをきっかけに、私も少しずつ2匹の犬に慣れてきました。妻も、そんな私を見て、「あなたは最初、犬にふれるのに腰が引けてたけど、最近はまあまあ慣れてきたよね」と、ちょっと認めてくれるようになりました。

私は、そんな妻の言葉を聞いてうれしくなって、少しずつ、食事をあげたり、うんちの処理をしたり、ときには抱っこしたり、とペットというよりは、新しい家族として接している今日この頃です。

そう考えると、私は最近、まさに犬の「にわかファン」になっていますが、「にわかファン」も捨てたものではないなあ、とも思っています。

いずれにしても、「にわか」であろうと古くからであろうと、何かの、またはだれかのファンというのはいいものですし、みなさんにも、自分が好きなものをぜひ大切にしてほしい、そんな風に思っているのです。

